

様式第十八の四（第11条の3第3項関係）

認定事業適応計画の概要の公表

1. 認定の日付

2022年8月1日

2. 認定事業適応事業者の名称

ラピスセミコンダクタ株式会社

3. 認定事業適応計画の内容

（1）事業適応に係る事業の目標

■親会社ローム株式会社及びロームグループの環境ビジョン2050

近年、世界的なCO₂排出量の増加にともなう地球環境問題への対処が喫緊の課題となっている。

ロームグループは、これらの世界的な潮流に同調し、事業活動により発生する2050年のCO₂排出量“ゼロ”を目指す活動を開始した。

ロームは、サステナビリティ経営における重点課題に、①「気候変動」への対応、②「資源循環」のシステム構築、③「自然共生」を通じた生物多様性の保護、の3点を設定。

まずは、SiCをはじめとする脱炭素化商品の開発と、これらを製造するプロセスの省エネ化技術の開発から挑戦していく。

■ビジョンの実現に向けた、国内マザー工場である当社の3つの取り組み

顧客及び社会の脱炭素化に貢献できる新商品を生産する。

脱炭素化効果のある「SiC（シリコンカーバイド）デバイス」の量産体制を速やかに整え、市場への供給能力を高めることで普及を促進する。

それにより国内のCO₂排出量削減に貢献していく。

（2）その事業の生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標

2022年度からSiCデバイスの量産を開始するとともに2023年度中に生産能力を拡大させることでSiCデバイスの市場への供給量を増加し、国内の脱炭素化に貢献することを目標とする。

（3）財務内容の健全性の向上を示す目標

目標年度である2023年度までに経常利益を計上することを目標とする。

（4）事業適応の種類

エネルギー利用環境負荷低減事業適応

(5) 計画の対象となる事業（日本標準産業分類における中分類名称及びその分類コード）

電子部品製造（28）

計画の対象となる事業は主に半導体素子を生産するものであるため。

(6) 事業適応の具体的内容

ロームグループは、SiCを素材とする化合物半導体の研究、開発において業界をリードするとともに量産化においても高い実績を持つ。脱炭素化に向けてグループ全体で生産能力の拡大に取り組んでおり、ラピスセミコンダクタ株式会社宮崎工場では、以下の取組みを推進していく。

（2022年度）

・SiCデバイスの量産を開始。SiCデバイス特有の構造を実現する製造装置や品質課題を解決し高品質な生産を実現する検査装置、TEST装置を導入し安定量産を実現する。

又、生産設備、工場附帯設備の投資を行うことで生産数増加を図り、EVシフトが加速する自動車産業や産業機器市場を中心とした顧客に販売することで、市場とシェアの拡大に応じて炭素生産性の向上を図る。

（2023年度）

・更に生産設備の投資を行うことで生産数増加を図り、自動車・産業機器市場を中心とした顧客へのシェアを拡大し、炭素生産性の向上を図る。

(7) 事業適応の開始時期及び終了時期

開始時期 2022年7月

終了時期 2024年3月